

日本ユニシス

SOA を段階的に浸透させていくことで 企業システムの柔構造化を実現していく

SOA がもたらす真のメリット

SOAとは、ソフトウェアを“サービス”という単位で捉え、外部から呼び出し可能なインタフェースを備えた部品とみなし、それを組み合わせてアプリケーションの連携や統合を行うシステム設計手法のことである。このSOAの概念を適用することで、重複するシステム機能を削減（コスト削減/再利用性の向上）し、既存資産の有効利用によりシステム構築スピードが向上され、部品化されたサービスを組み合わせることで業務変更を柔軟に行えるようになる。SOAを適用したシステム開発のポイントについて、日本ユニシス・ソリューションの齋藤重幸氏は、「ビジネ

ス戦略にITを関連づけるメソドロジー（方法論）をもとに、事業モデルを踏まえた全体システムと、各業務モデルに即したサブシステム（分散システム）を構築します。この時、分散システムを構成要素とした統合システムのアーキテクチャを定義します。そして、IT戦略の将来像とSOA導入のロードマップを示すグラウンドデザインや参照モデルを明確にすることが必要です」と語っている。

日本ユニシス・ソリューション(株)
サービスビジネスディベロップメント
室長
齋藤 重幸氏



日本ユニシスでは、「SOAとは、ビジネスプロセスの可視化と企業システムの柔構造化を実現し、ビジネスに変化対応力をもたらすことでTCOの削減とTVO（Total Value of Ownership）の最適化を可能にするITインフラストラクチャを構築するための設計手法である」と考えている。図1は、日本ユニシスが作成したSOA導入のシナリオである。各レベルに応じてエントリーポイントを設定し、クリアしていくことでSOAを段階的に浸透させていく。具体的には、SOAnalyze、SOArchitect、SOApplyの3つのアプローチにおいて、それぞれ確立された方法論をもとに様々な課題を解決。企業システムのあるべき姿を追及しながら、現実的な解を見出すことで、SOAの真の価値を提供していく。

SOA 導入のシナリオ

SOA関連プロダクトベンダーとの密接なアライアンスを確立している

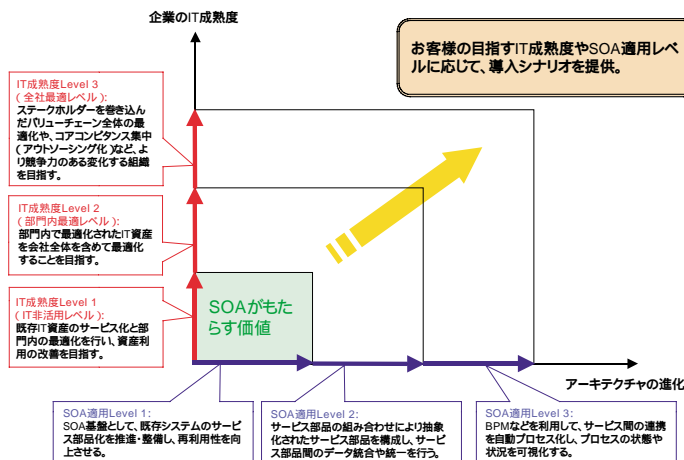


図1 SOA 導入のシナリオ

お問い合わせ先
日本ユニシス株式会社
URL : <http://www.unisys.co.jp/soa/>